

衆申第三二號

起案

昭和十六年六月二十八日

閣議決定

昭和十六年七月一日

指

令

昭和十六年七月一日

濟

内閣總理大臣

内閣書記官長

内閣書記官

外務大臣

陸軍大臣

文部大臣

逓信大臣

厚生大臣

内務大臣

海軍大臣

農林大臣

鐵道大臣

小倉國務大臣

大藏大臣

司法大臣

商工大臣

拓務大臣

陸軍省大臣

別紙内閣總理大臣請議衆議院議決國策會社ノ救正理ニ關スル建議

ノ件

ヲ審査スルニ右建議ニ對スル同大臣ノ意見ハ相當ノ儀ト被認ニ付請議ノ通閣議決定相成然ルベシ

指令案

例文

見出 番號	件名番號	請議大臣	件名	意見概要
	衆 申 三 二	内閣總理大臣	國策會社ノ整理ニ 関スル建議ノ件	曩ニ決定セル經濟新體 制確立要綱ニ於ケル企 業新體制確立ノ方針 ノ趣旨ニ鑑ミ國策會 社ノ現狀ニ再檢討ヲ加 ヘ整理ノ要否ニ関シ篤 ト考究スルコトヲ致度

内閣

内閣衆甲第三二號

衆議院議決國策會社ノ整理ニ關スル建議ノ件
建議ノ要旨

現下我國ニ於ケル所謂國策會社ハ産業經濟ノ統制ニ伴ヒ漸ク其ノ
數ヲ増加シ來レルガ是等會社中産業狀態ノ變化ニ因リ既ニ其ノ存
立ノ意義ヲ失ヒ或ハ組合ヲシテ經營セシメ其ノ目的ヲ達シ得ルモ
ノアリ或ハ又合併スルヲ適當トスルモノアリ而シテ是等會社ニシ
テ生産者或ハ消費者ノ犠牲ニ於テ不當ノ手數料ヲ徴シ之ニ依リ其
ノ役員ニ對シ不當ノ俸給、手數ヲ給シツツアルモノアリ、加フル
ニ人事其ノ宜シキヲ得ザル爲其ノ能力舉ラザルモノアリト聞クス
ノ如キハ目下我國ノ非常時局ニ鑑ミ認容シ能ハザル所ナリ仍テ政
府ハ速ニ國策會社ヲ整理セラレシムコトヲ望ムト謂フニアリ

右ニ對スル意見

内閣

政府ハ曩ニ經濟新體制要綱ヲ決定シ、企業新體制確立ノ方針ヲ定
メ企業ハ原則トシテ民營ヲ本位トシ國營及國策會社ニ依ル經營ハ
特別ノ必要アル場合ニ限ルコトト定メタルヲ以テ、此ノ趣旨ニ鑑
ミ國策會社ノ現状ニ再檢討ヲ加ヘ整理ノ要否ニ關シ篤ト考究スル
コトト致度

右閣議ヲ請フ

昭和十六年六月二十八日

内閣總理大臣公爵近衛文麿



内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

書 國策會社ノ整理ニ關スル建議

右本院ニ於テ議決セリ因テ及送付候也

昭和十六年三月二十五日

衆議院議長 小山松



内閣總理大臣 公爵 近衛文麿殿

衆甲 三三二

衆議院

衆議院書記官長 大木

操



16.5.19
務庶

茶甲 三二一

國策會社ノ整理ニ關スル建議
政府ハ速ニ國策會社ヲ整理セラレムコトヲ望ム
右建議ス

主

裏面白紙

360

經濟新體制確立要綱

昭一五—二七
閣議決定

第一 基本方針

日滿支ヲ一環トシ大東亞ヲ包容シテ自給自足ノ共榮圈ヲ確立シ、其ノ圈内ニ於ケル資源ニ基キテ國防經濟ノ自主性ヲ確保シ官民協力ノ下ニ重要産業ヲ中心トシテ綜合的計畫經濟ヲ遂行シ以テ時局ノ緊急ニ對處シ國防國家體制ノ完成ニ資シ依ツテ軍備ノ充實國民生活ノ安定國民經濟ノ恒久的繁榮ヲ圖ラントス

而シテ之ガ爲ニハ(一)企業體制ヲ確立シ資本、經營、勞務ノ有機的一體タル企業ヲシテ國家綜合計畫ノ下ニ國民經濟ノ構成部分トシテ企業擔當者ノ創意ト責任トニ於テ自主的經營ニ任ゼシメ其ノ最高能率ノ發揮ニ依ツテ生産力ヲ增強セシメ(二)公益優先、職分奉公ノ趣旨ニ從ツテ國民經濟ヲ指導スルト共ニ經濟團體ノ編成ニ依リ國民經濟ヲシテ有機的一體トシテ國家總力ヲ發揮シ高度國防ノ國家目的ヲ達成セシムル

ヲ要ス

本要綱ノ實施ニ當リテハ現下ノ時局ニ鑑ミ其ノ緊急ナルモノニ重點ヲ置キ必要ニ應ジ逐次之ヲ實施スルモノトシ生産力ノ低下、配給ノ不圓滑ヲ生ズルコトナク民心ノ不安ヲ來スコトナキヲ期ス
尙本體制ノ整備ニ即應シテ關係行政機構及其ノ事務ノ再編成ヲ行フ

第二 企業體制

企業體制ヲ確立シ各個ノ企業ヲシテ國家目的ニ從ヒ其ノ創意ト責任トニ於テ之ヲ經營セシメ生産ノ確保増強ヲ期ス

六、企業ハ民營ヲ本位トシ國營及國策會社ニ依ル經營ハ特別ノ必要アル場合ニ限ル

三、企業ハ其ノ性質ニ依リ一定ノ基準ニ從ヒ之ガ設立等ニ付必要ニ應ジ制限ヲ加フ

三、企業ハ其ノ性質ニ依リ一定ノ基準ニ從ヒ生産計畫竝ニ技術的見地ヨリ見テ之ヲ分離結合セシムルコトヲ得

四、中小企業ハ之ヲ維持育成ス但シ其ノ維持困難ナル場合ニ於テハ自主的ニ整理統合セシメ且其ノ圓滑ナル轉移ヲ助成ス

五、企業ハ國家的生産増強ニ寄與セシメ又其ノ恒久的發展ヲ遂ゲシムル爲適當ナル指導統制ヲ加フ

イ、主要物資ノ價格ヲ公定スルニ當リテハ中庸生産費ヲ基礎トシ適正利潤ヲ計上ス

ロ、國民經濟ノ秩序保持ニ障害アル投機的利潤及獨占的利潤ノ發生ヲ防止スルト共ニ適正ナル企業利潤ヲ認メ特ニ國家生産ノ増強ニ寄與シタル者ニ對シテハ其ノ利潤ノ増加ヲ認ム

ハ、企業利益ノ分配ニ當リテハ適當ナル制限ヲ加フルモ其ノ超過部分ハ公債其ノ他ヲ以テ留保シ一定條件ニ從ヒ一定期間後ニ於テ處分スルノ途ヲ拓ク

ニ、發明發見ニ依リ國家生産ノ増強ニ寄與シタル者ニ對シテハ特別ナル報奨ノ途ヲ講ズ

ホ、技術ハ之ヲ公開スルノ途ヲ拓キ其ノ優秀ナルモノニ對シテハ適當ノ報奨ヲ與ヘ以テ其ノ進歩ヲ促進ス

ヘ、企業ノ設備更新ヲ容易ナラシメ其ノ他企業ノ基礎ヲ強固ナラシムル爲償却ヲ強化ス

ト、企業ノ國家的生産増強ニ對スル寄與ニ應ジ重點的ニ其ノ擴充
發展ヲ助成ス

六 農業水産業經營ノ企業管制ニ付テハ別途之ヲ考慮ス

第三 經濟團體

一、經濟團體組織

イ、重要産業部門ニ付テハ企業及組合ヲ單位トシ同一業種ニ屬スル業者又ハ同一物資ニ關スル業者ヲ網羅スル業種別又ハ物資別經濟團體ヲ組織ス

其ノ基本條件左ノ如シ

(1) 經濟團體ハ之ヲ特殊法人トス

(2) 經濟團體ハ業者ノ推薦ニ基キ政府ノ認可スル理事者指導ノ下ニ之ヲ運営ス

ロ、其ノ他ノ産業ハ前項ニ準ジ必要ニ應ジ業種別又ハ地域別系統團體ニ組織ス

ハ、外地ノ企業ハ外地各地域ニ於テ前各項ニ準ジ夫々經濟團體ヲ組織ス但シ内地トノ一元的統制ヲ特ニ必要トスルモノニ付テハ全國的統制ニ付適當ナル措置ヲ講ズ

ニ、經濟團體ヲ組織スルニ付特ニ留意スベキ事項左ノ如シ

(1) 經濟團體ノ編成ニ當リテハ重要ナルモノヨリ逐次必要ノ順序ニ依リ之ヲ組織ス

(2) 軍事上特ニ必要アル企業ニ付テハ別途之ヲ考慮ス

(3) 全産業ヲ統轄スル最高經濟團體ハ必要アリト認めタルトキニ於テ之ヲ設置ス

三、經濟團體ノ職能

イ、重要産業經濟團體ノ職能左ノ如シ

(1) 政府ノ協力機關トシテ重要政策ノ立案ニ對シ政府ニ協力スルト共ニ實施計畫ノ立案及其ノ計畫實行ノ責ニ任ジ且必要アル場合ニ於テハ政府ニ意見ヲ具申ス

(2) 前項ノ計畫實行ニ付下部經濟團體及所屬企業ノ指導ニ任ズ

(3) 必要ニ應ジ生産、配給等經營ノ實績調査ヲ爲スト共ニ生産品ノ品質規格ノ検査ノ衝ニ當リ下部經濟團體ヲ監督ス

(4) 共同計算其ノ他ノ方法ニ依リ犠牲事業等ニ對シ共助ノ實ヲ舉
ゲ産業ノ發展ニ資ス

ロ、其ノ他ノ團體ノ職能モ概ネ右ニ準ズ

三 政府ノ監督及大政翼贊會トノ關係

イ、政府ハ經濟團體ヲ指導監督ス

經濟團體ノ整備ニ伴ヒ其ノ運営ハ之ヲ出來得ル限り自主的ナラシ
メ指導監督ハ大綱ニ止ム

ロ、政府ハ經濟團體ノ組成發達ヲ圖ル爲大政翼贊會ト協カス

四 農林水産業ニ關スル經濟團體組織ニ付テハ別途之ヲ考慮ス

内閣衆甲第三二一號

昭和十六年七月一日

内閣總理大臣公爵近衛文麿

内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

指 令

昭和十六年六月二十八日

國策會社ノ整理ニ關スル建議ノ件請議ノ通

内閣

裏面白紙

衆甲第三二號

案 起

昭和十六年六月二十六日

裁可昭和十六年六月二十七日

決定昭和十六年六月二十七日

内閣總理大臣

内閣書記官長

内閣書記官

内閣書記官

請 議 案

衆議院議決國策會社ノ整理ニ關スル建議ノ件

建議ノ要旨

現下我國ニ於ケル所謂國策會社ハ産業經濟ノ統制ニ伴ヒ漸ク其ノ數ヲ増加シ來レルガ是等會社中産業狀態ノ變化ニ因リ既ニ其ノ存立ノ意義ヲ失ヒ或ハ組合ヲシテ經營セシメ其ノ目的ヲ達シ得ルモノアリ或ハ又合併スルヲ適當トスルモノアリ而シテ是等會社ニシテ生産者或ハ消費者ノ犠牲ニ於テ不當ノ手数料ヲ徴シ

之ニ依リ其ノ役員ニ對シ不當ノ俸給、手當ヲ給シツツアルモノアリ、加フルニ人事其ノ宜シキヲ得ザル爲其ノ能力擧ラザルモノアリト聞クスノ如キハ目下我國ノ非常時局ニ鑑ミ認容シ能ハザル所ナリ仍テ政府ハ速ニ國策會社ヲ整理セラレンコトヲ望ムト謂フニアリ

右ニ對スル意見

政府ハ曩ニ經濟新體制要綱ヲ決定シ、企業新體制確立ノ方針ヲ定メ企業ハ原則トシテ民營ヲ本位トシ國營及國策會社ニ依ル經營ハ特別ノ必要アル場合ニ限ルコトト定メタルヲ以テ、此ノ趣旨ニ鑑ミ國策會社ノ現狀ニ再檢討ヲ加ヘ整理ノ要否ニ關シ篤ト考究スルコトト致度

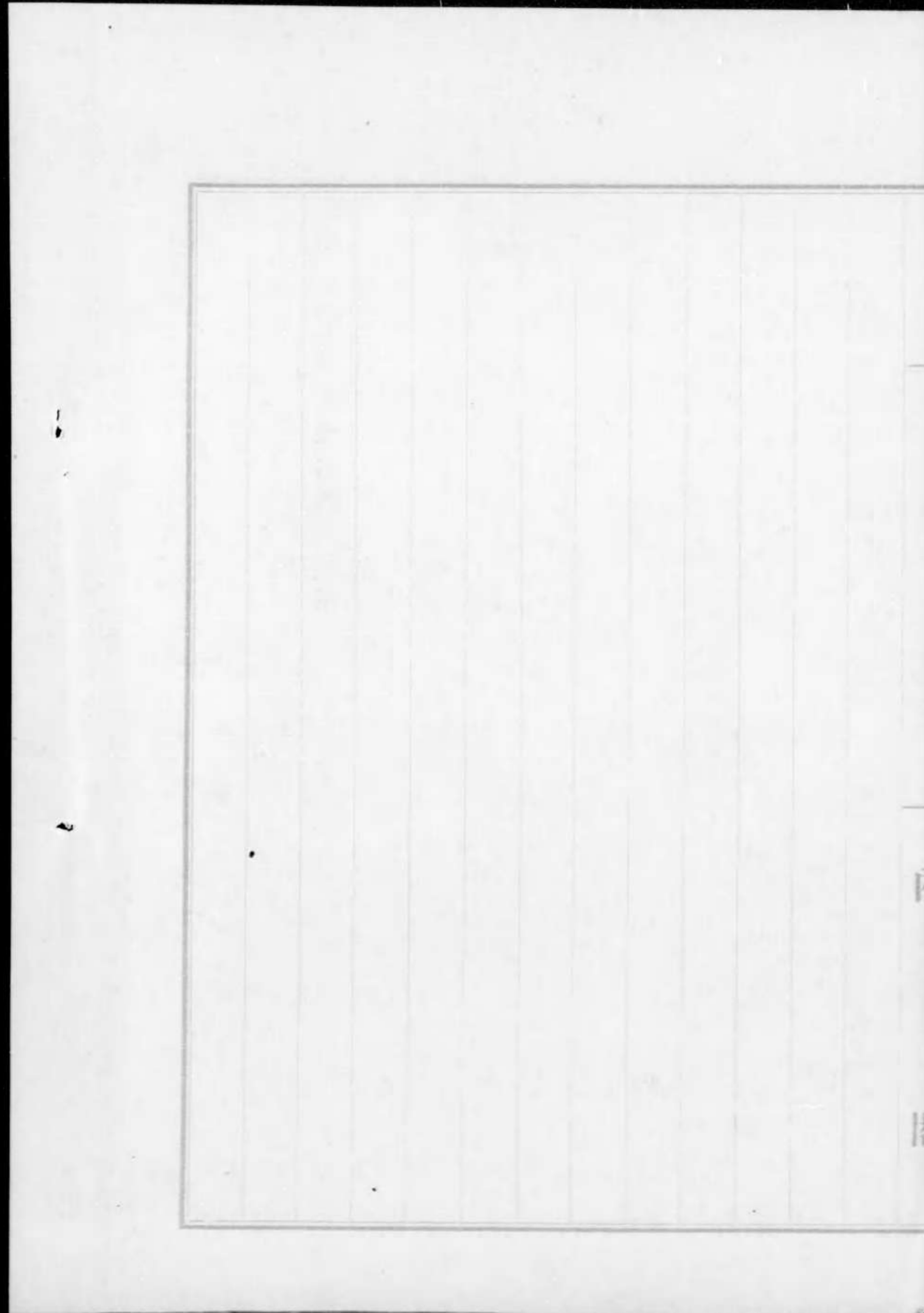
右閣議ヲ請フ

昭和十六年 六月二十八日

(白井晴)

内閣總理大臣

内閣總理大臣 宛





内閣衆甲第 三二 號

昭和十六年五月二十九日

内閣總理大臣公爵 近衛 文 麿



内閣總理大臣公爵近衛文麿殿

別紙衆議院議決

「**國策會社ノ整理ニ關スル建議**」

右貴廳主管ノ件ニ付謄本及回付候

内閣

裏面白紙

389

書 國策會社ノ整理ニ關スル建議

右本院ニ於テ議決セリ因テ及送付候也

昭和十六年三月二十五日

衆議院議長 小山松壽

内閣總理大臣公爵 近衛文麿 殿

内閣

衆議院書記官長 大木 操

國策會社ノ整理ニ關スル建議
政府ハ速ニ國策會社ヲ整理セラレムコトヲ望ム
右建議ス

裏面白紙

裏面白紙

國策會社ノ整理ニ關スル建議案理由書

産業經濟統制ノ爲國策會社ハ兩後ノ筭ノ如ク孳生シ各省所管屬スルモノ
枚舉ニ違アラス然ルニ是等ノ會社中産業狀態ノ變化ニ因リ既ニ存立ノ
意義理由ヲ失ヒタルモノアリ或ハ組合チシテ經營セシメ其ノ目的ヲ達
シ得ルモノアリ或ハ又合併スルチ適當トスルモノアリ而シテ是等會社
ニシテ生産者或ハ消費者ノ犠牲ニ於テ不當ノ手数料ヲ徴シ之ニ依リテ
其ノ役員ニ對シ不當ノ俸給、手當ヲ給シツツアルモノアリ糶テ加ヘテ
人事其ノ宜シキヲ得サル爲其ノ能力ノ擧カラサルコト甚シト聞ク斯ノ
如キハ目下我カ國ノ非常時局上ヨリ觀テ認容シ能ハサル所ナリ仍テ政
府ハ速ニ國策會社ヲ整理スルノ要アリト認ム是レ本案ヲ提出スル所以
ナリ

内閣

○松村光三君：：：日本ノ行政ト云フモノハ大體マダ國策會社ヲ監督スルニ不慣レテアル、第二ハ適當ナ人ヲ選ブコトガ相當ニ困難デアルト云フヤウナコト、第三ハ財政上ノ理由、其ノ他色々ノ理由ガアリマスガ、今日非常ニ多イ所ノ國策會社ト云フモノヲ少クトモ整理統合シテ、優良ナル成績ヲ擧ゲナケレバナラヌ時期ニ既ニ到着致シテ居リマスノデ、茲ニ同僚諸君ト共ニ此ノ建議案ヲ提出シタ次第デアリマス、細カイコトハ他ノ委員諸君カラ御話ガアリマセウガ、一例ヲ擧ゲマスナラバ、商工省所管ニ於テ產金會社ト帝國鑛業開發會社ト云フモノガアル、此ノ二ツノ帝國鑛業開發會社ハ後カラ出來タノデアリマスガ、此ノ二ツノ會社ハ定款ヲ讀ムト明カニ分野ヲ決メテ居ルヤウデアルケレドモ、一體鑛業ノ本質カラ言ヒマシテ、此ノ二ツノ會社ハ餘程仕事ガ重複シテ居ル、更ニ東北興業會社ノ中デ鑛山ニ關スルコトハ當然東北興業會社カラ除イテ、帝國鑛業開發ニ合併シナケレバナラヌ状態ニアル、ナゼカト云フト大體技術者專門家ヲ得ルコトノ難カシイ

内閣

今日ノ日本ノ状態ニ於テ、或ハ產金會社、或ハ鑛業開發會社、或ハ東北興業會社ト言ウテ、非常ニ多クヤツテ居ルコトハ、シテ居ルコトガ困難デアルノミナラズ、資材物資各方面カラ見マシテモ、又東北ノ鑛山ヲ開發スルト云フヤウナ小サイ眼點カラ見ル必要ハナイノデ、日本全體ノ視野カラ鑛業開發ニ從事スベキモノデアリマシテ、此ノ東北興業會社ノ中ノ鑛山ニ關スルコトハ、當然帝國鑛業開發ニ速カニ合併スルノデナケレバ、眞ニ東北鑛業ノ開發ノ目的ヲ達セラレナイコトハ、専門家ノ殆ド一致シタル意見デアル、ソレハ一ツノ例デアリマセヌ、ドウカ此ノ澤山ノ國策會社ヲ整理統合シテ、優秀ナル實ヲ擧ゲル爲ニ、政府ハ至急ニ企畫院ヲ中心トシテ其ノ議ヲ進メラレシムコトヲ要望シテ已ミマセヌ、是ガ此ノ建議案ヲ提出シタ理由デアリマス、尙ホ細カイ具體的ナ案ハ、他ノ委員諸君カラ説明ガアルト思ヒマスノデ、私ハ提案ノ理由ヲ根本的ニ申上ゲタ次第デアリマス、何卒諸君ノ御贊成ヲ御願ヒ致シマス

○星野國務大臣國策會社ノ整理ニ關スル建議ノ御趣旨ハ、只今高田サ
ン及ビ松村サンカラ御述ベニナツタノデアリマスガ、政府ト致シマシ
テモ此ノ問題ニ付テハ十分ノ關心ヲ持ツテ居リマス、又御趣旨ノ點ニ
付テハ十分御諒解ヲ致ス次第デゴザイマス、勿論國策會社ニ何レモ生
レマシタ時ニ於テハ相當ノ理由ガアリマシテ、大體ニ於キマシテハ皆
様方ノ御協力ニ依リ生ジタモノガ多イノデアリマス、併シ其ノ後段々
時ガ經ツニ從ヒマシテ、（色々ノ事情ガ違ツテ參ルト云フコトニ連レマ
シテ、自ラ其ノ本來ノ職責ト云フモノニ變化ヲ生ジテ居ルモノモ少ク
ナイト思ヒマス、又色々實行ノ結果ト致シマシテ、只今松村サンノ仰
シヤツタヤウニ更ニ檢討ヲ要スルモノモ少クナイ、而シテ政府ト致シ
マシテハ昨年閣議デ決定致シマシタ所ノ經濟新體制ノ要綱ニ於キマシ
テモ、原則トシテ民營ニ據ツテ、國營竝ニ國策會社ト云フモノハ、特
別ノ必要アルモノニ限リト云フコトヲ決定シテ居ルノデゴザイマシテ
、此ノコトハ獨リ今後ノ方針ト云フコトニ止マラズ、同時ニドウ致シ

内閣

マシテモ從來ノ分ニ付テモ一應再檢討スル必要アルコトハ無論デアリ
マス、先程モ兩君カラ御話ニナリマシタヤウニ、今日或ル意味ニ於キ
マシテ、ヤハリ國策會社ニ付テモ一應再檢討スル時期ニ到達シテ居ル
ノデハナイカト云フコトニ付テハ全ク同感デアリマス、御建議ノ趣旨
ニ對シマシテ、十分尊重致シマシテ、政府ト致シマシテモ、出來ルダ
ケ早イ機會ニ於キマシテ、原則トシテ御建議ノ趣旨ニ從ツテ行キタイ
ト思ヒマス、具體的ニドノ國策會社ヲドウ云フ風ニ變ヘテ行クトカ、
或ハ之ヲ變ヘテ行クト云フヤウナコトニ付テハ、私ハ今日申上ゲルコ
トハゴザイマセヌガ十分一ツ調査致シマシテ、出來ルダケ御趣意ニ副
ヒタイト思ヒマス

國策會社ノ整理ニ關スル質問主意書

一 政府ハ現下ノ實情ニ鑑ミ速ニ既設ノ國策會社ヲ整理セララルルノ必要アリト認ム政府ノ所見如何

一 政府ハ時局重大ノ際官吏ヲ國策會社ノ役員ニ選任スルノ弊ヲ一掃スルノ意思ナキヤ

一 政府カ國策會社ノ配當保證ヲナセル爲強テ無用ノ不勞利得ヲ與フルカ如キ弊アリト認メラル之ニ對スル政府ノ所見如何

右及質問候也

衆議院議員高田耘平君外三名提出國策會社ノ整理
ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一 現存ノ國策會社ハ夫々實際ノ必要ニ基キ設立セラレタルモノナ
ルモ其ノ後情勢ノ變化等ニ因リ設立當初ノ意義ヲ失ヒ存續ノ必
要乏シキニ至リタルモノアラバ之ヲ整理スルニ各ナラズ政府ハ
現狀ニ再檢討ヲ加ヘ適宜善處セントス

二 國策會社役員ノ選任ハ當該會社ノ目的性質ニ應ジ充分其ノ機能
ヲ發揮セシムルノ見地ニ基キ適任者ヲ簡拔シテ之ニ充ツルヲ本
旨トス政府ハコノ趣旨ニ依リ廣ク各方面ヨリ適材ヲ求メ之ヲ適
所ニ配セントスルモノニシテ監督ノ地位ニ在ル官吏ヲ國策會社
ノ役員ニ選任スルガ如キハ特ニ適當ト認ムル場合ニ限ル方針ナ
リ

三 政府ガ國策會社ニ對シ利益配當保證ヲ爲スハ慎重ナル檢討ヲ加

内閣

ヘ眞ニ其ノ必要アル場合ニ限ルハ當然ニシテ苟シクモ弊害ノ之
ニ伴フコトナキヲ期セントス
右及答辯候也

昭和十六年二月二十日

内閣總理大臣公爵近衛文麿

大藏大臣河田烈 印

